

第70回 日本PTA全国研究大会 山形大会

第70回日本PTA全国研究大会が、8月26日・27日に山形で開催されました。スローガンに「人とひとのつながりを体感しよう!」～あがらっしゃい精神の山形から～を掲げ、PTAが地域や学校、保護者同士のつながりを創る役割を担い、人とひとの「つながり」の大切さを体感出来る大会づくりをされていました。次の4つのテーマのもと、大いに学んだ2日間でした。

- ・「いのち」のつながりを感じ、次代につなぐPTA活動
- ・「ふるさと」を愛し、心をつなぐPTA活動
- ・生きる力を「まなび」、次代につなぐPTA活動
- ・多様な「つながり」から、子どもたちの未来を切りひらくPTA活動

PTA さっぽろ

第132号12月2日発行

編集・発行：札幌市PTA協議会 広報委員会
 ホームページ <http://sapporo-pta.gr.jp/>
 e-mail shipikyo@sapporo-pta.gr.jp
 〒063-0051札幌市西区宮の沢1-1-10
 札幌市生涯学習総合センター3F TEL. (011) 671-2371
 印刷：株式会社OK印刷

第45回 PTA広報紙まつりのお知らせ

募集期間 令和4年11月18日(金)～12月31日(土)

対象作品 令和4年1月～12月までに発行した広報紙の中から各応募部門につき1点。
 詳細は各単位PTAへ10月に配布済みの「実施要項」をご覧ください。
 ※募集期間以降に発行される対象広報紙につきましては、事前にご連絡ください。

表彰式 令和5年2月20日(月)14:00～
 場所：札幌市生涯学習総合センターちえりあ6階講堂

作品の展示 期間：令和5年2月20日(月)～24日(金)
 場所：ちえりあロビー

※なお、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、開催変更の可能性がございますのでご了承ください。

第69回 日本PTA北海道ブロック研究大会 オホーツク北見大会

「Well-being (ウェルビーイング)」～夢・未来を拓く子どもたちの幸せのために～

各分科会内容	分科会テーマ	担当
第1分科会	組織・運営 PTAとコミュニティスクール ～地域とともにある学校づくり～	札幌市PTA協議会 (清田区PTA連合会)
第2分科会	家庭教育 コロナ禍における家庭教育の重要性 ～子どもたちの永遠の応援団として～	帯広市PTA連合会 石狩管内PTA連合会
第3分科会	学校支援 コロナに負けるな! ～子どもたちに楽しい学校生活を～	稚内市連合PTA オホーツク西部地区PTA連合会
第4分科会	地域連携 家庭、学校、地域が連携し、未来を担う子どもたちを育てるために ～笑顔で子どもたちと接するために～	函館市PTA連合会 宗谷管内PTA連合会
第5分科会	食育 食育でつながる地域と学校	札幌市PTA協議会 (豊平区PTA連合会)
特別第1	北海道中学生討論会 自分たちが幸せになるためのまちづくりとは?	オホーツク中部地区 PTA連合会
特別第2	地域独自のテーマ 地域スポーツを生かした児童生徒の体力向上と運動習慣の定着 ～カーリングを通じてのwell-being～	

清田区

清田区PTA連合会では、第1分科会として近年各自治体レベルで導入が進むコミュニティスクールについて提言を行いました。コミュニティスクールとは、地域や保護者の代表が参画する学校運営協議会を設置し、それを核により地域に密着した教育を実現しようとするものです。札幌市では「小中一貫した教育」の基本方針に基づいて、中学校区を基本とする札幌モデルの構築に向けて実証実験を進めている点などについて報告しました。また、PTAとの関わりが非常に深い取り組みであるにもかかわらず、PTAとの関係や従来の活動とのつながりなどについて十分な検討が行われていない点についても指摘しました。

日本PTA北海道ブロック研究大会オホーツク北見大会が10月8日・9日の2日間にわたり、全道各地よりオンラインを含めて多くのPTA会員が集い開催されました。

初日は7つのテーマに分かれ分科会が開催されました。特に注目を集めたのが、特別第2分科会のカーリングチーム「一般財団法人ロコ・ソラーレ」代表理事「本橋 麻里」さんによる「地域スポーツを生かした児童生徒の体力向上と運動習慣の定着」～カーリングを通じてのwell-being～をテーマにした講演です。全体会では、TEAM NACSの「森崎 博之」さんに「父親目線の子育てと食べることの大切さ」をテーマにご講演いただきました。

各分科会は動画配信サイトで12月末まで視聴できますのでぜひ、ご覧ください。

去る9月4日(日) 札幌市教育文化会館にて 提言の収録が行われました。

豊平区

豊平区PTA 連合会では、みどり小学校栄養教諭の須合幸司さんが『第5分科会「食育」～食育でつながる地域と学校～』と題してお話されました。先生は「皆さんは、子どもが初めて離乳食を食べる時に、1口食べたと思ったら、いきなり口から食べ物を吐き出してしまった…そんな経験はありませんか?」と話し始めます。これには子育ての経験のある方なら思わず頷いてしまいますよね。また、子どもの好き嫌いについて「自分がトマト嫌いだから、子どもも食べられないのは遺伝だから仕方ないなどと、決めつけてりしていませんか?」とも言及し、なぜ子どもはするように食べ物を口から出してしまうのか、好き嫌いの気持ちが湧いてくるのかなど、スライドを交えながら解りやすく説明しています。さらにリンゴの栽培で地域とつながる美園小学校の実践も含め皆さんにぜひ聞いて頂きたい内容になっています。皆さんも、お子さんと「食育」について話してみたい事、間違いのない内容です。ぜひ、オンライン配信をご視聴ください。

File 002

札幌市立 藤野小学校(南区)

児童数:238名
クラス数:9クラス(2022.10.31現在)
行事名:友愛セール おやじの会

藤野小学校PTAでは、今年度、「出来るところから一步一步前進を」を合言葉に、3年ぶりにほとんどのPTA活動を再開しました。その中で、メインとなった「PTA友愛セール」と今年度新たに企画されたおやじの会主催の「逃走中」を紹介します。



●友愛セールは、藤野小学校で30年以上続いているPTAの伝統行事です。コロナ禍のため令和元年度の開催を最後に休止していましたが、子どもたちが毎年楽しみにしていたイベントを途絶えさせたくない、という思いのもと、昨年度から何度も話し合いを重ね、学校側の協力のもと、今年度開催実現に至りました。実現に向けた取り組みと、当日のイベントの様子をご紹介します。

友愛セール開催までの流れ

【平成30年(令和元年)度】
これまでは厚生部主催で行っていたが、PTA組織見直しに伴い専門部が廃止されたため、事務局が引き継ぎ、内容を一部見直し、新たな形の友愛セールを開催。

【令和2~3年度】
コロナ禍によりPTA活動休止。次年度、コロナ禍での開催に向けた話し合いを事務局役員、学校管理職と進める。令和3年度末に来年度のPTA活動についてのアンケートを取り、友愛セールを含むPTA活動を再開してもいいという意見が半数を超えたため、活動再開を決定する。また再開にあたり、保護者の負担軽減のため、PTA活動に参加する形態を「一人一役」から「一家庭一役+ボランティア」に変更。

【令和4年度】
4月より、友愛セール開催に向けた話し合いを事務局、学校と重ね、参加方法、会場配置、感染対策等について協議の上、開催決定。



▲6年生が育てたじゃがいも無料配布



▲得点に応じて景品(駄菓子)をゲット!

先生方や中高生の卒業生たちがスタッフとしてコーナーを盛り上げてくれました。



▲スーパーボールすくい



▲一番人気のしゃてき

感染対策のポイントとして

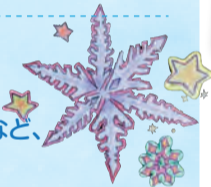
- 学校の1階から3階までの特別教室等を使い、会場を分散させました。
- 開催時間を二部に分け、参加者を分散させました。
- 参加者のマスク着用、手指消毒の徹底をお願いしたが、スタッフの手袋着用やフェイスガード着用は任意としました。

友愛セールを開催してみた

今回の友愛セールには、1部、2部合わせて324名の児童、保護者、兄弟姉妹の参加がありました。3年ぶりの開催となり、参加者、スタッフの半数が経験のない状態でしたが、開催後に行ったアンケートでは、9割以上の参加者が「楽しかった」「来年も参加したい」と答えてくれました。

児童の声

- ・こういうイベントが学校ではあまりないから楽しかった。
- ・友だちとなかよくまわられたので楽しかった。
- ・3年ぶりですと楽しみにしていたから楽しかった。
- ・コロナでおまつりが無かったけど、しゃてきとかくじ引き、スーパーボールなど、おまつりで出来るあそびが楽しめた。
- ・色んなコーナーがあって、売っている人もやさしかった。



おやじの会

おやじの会では、コロナ前まで行っていた”おやじと体育館であそぼう会”を、今年度は新企画「逃走中」として開催しました。テレビで大人気の企画とあって告知の段階で大きな反響がありました!イベントの内容がイメージしやすかったこともあり、運営を手伝ってくれるボランティアがたくさん集まったことはとても嬉しいことでした。当日は100人を超える児童の参加があり、秋空のもと、広いグラウンドに元気な歓声が響きました♪



おやじの会メンバーだけでなく、ボランティアのお父さん、卒業生、児童会館の先生もハンターとして参加してくれました!



File 003

札幌市立 柏丘中学校(白石区)

生徒数:628名
クラス数:20クラス(2022.10.31現在)
行事名:標準服リサイクル販売会

例年では9月の学校祭2日目に開催され、バザーや喫茶コーナー、おやじの会の野菜販売会と並んでPTAの名物イベントとなっていた「標準服リサイクル販売会」。新型コロナウイルス感染症拡大により、子どもたちの学校生活の為に様々な配慮がなされる中で、この状況下であるからこそ各ご家庭の標準服購入における負担を減らしたい!と根気強く開催を試みてきたイベントです。学校祭とは別日にするとしていつが良いか、感染症対策はどのように講じるか、PTA役員会にて様々な協議を重ねた後に開催を試みるも、しかしその道程はなかなか険しく…

感染症拡大から
【1年目】参加者が5名程度しか来ず悲しい結果に。
【2年目】前年度の経験を活かし2月の新入生保護者説明会と同日開催を予定するも蔓延防止措置期間にあたり中止。

【3年目(今年度)】
保護者の方々から開催を乞う声もあり、6月の完全下校日の放課後に試みることに。案内のお便りは、保護者の方々の目に留まるようにと今春に誕生した当校PTA非公式キャラクター・トゥウィンクル★(スター)カッシーニに華を添えてもらうなどの工夫も加えました。その結果…主催側もビックリ!沢山の保護者の方々に参加していただき充実した会となりました!!コロナ生活で着用頻度の高くなったジャージは2年分のストックがほぼなくなった程。また、学校祭とは別日であることで、サイズ合わせの為に子

どもと一緒に参加ができ、先生方もお手伝いに参加して下さるという新たなメリットも生まれました(笑)。保護者の皆さんにとって来校の機会が減ってしまった今、学校やPTAの雰囲気なども知ることができる有益なイベントとなっているのではないのでしょうか。今年度は新入生保護者説明会と同日に2回目の開催を予定中です。今後も子どもたちの豊かな学校生活の為、欠かさず開催していけたらと思っております。

▶熊谷校長先生からの温かい差し入れに主催役員のヤル気もUP!



密を避ける為、会場までの経路や広い販売スペースを設けるなど工夫を施した。

◀柏丘中PTA非公式キャラクター「トゥウィンクル★(スター)カッシーニ」キュートな広報役として期待されている。



それ、どうやって実現したの?

～イベント編～

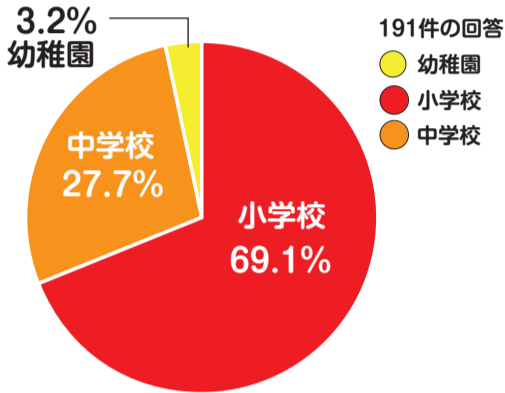
やるべきか、やらざるべきか。
やめるべきか、続けるべきか。

今の時代に合ったPTA活動ってなんだろう。
考えれば考えるほどPTA活動は難しい判断の連続です。
この特集シリーズでは、単位PTAの活動にスポットを当て、一つの活動をどのように実現していったかを紹介します。「やったこと」「やらなかったこと」に賛否を持ち込まずレポートしていきます。第1回目はイベント編です。

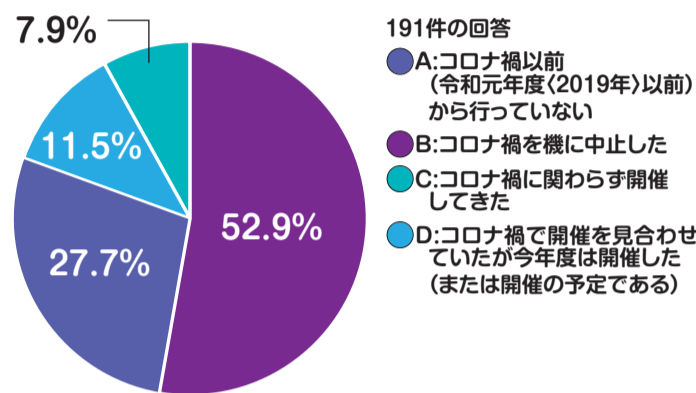
データで見れば・・・

今回の特集に関して、札幌市PTA協議会所属303単位PTAに対し、Googleフォームを利用し令和4年10月にアンケートを実施し、191件の回答をいただきました。たくさんのご協力をありがとうございました。

【1】所属単Pを教えてください



【2】単P主催のイベントについて現状を教えてください



質問【3】の「(開催したのは)どのようなイベントですか」については、多くのPTAより大変詳しい内容を記述していただきました。アンケートの回答からは、言わずもがなではありますが新型コロナウイルス感染症の流行がPTA活動に及ぼした影響の大きさを再認識するとともに、その中でも各PTAが活動を見直し工夫をしながらできていることを探っている様子を垣間見ることができました。今回は「イベント」に関するアンケートでしたので、実施に向けて工夫した具体的な例をまとめてみました。本紙面では一部抜粋したもののみ紹介させていただきますが、アンケートを集約したものについては、次号の広報紙または市P協ホームページに掲載し共有していく予定です。

File 001 札幌市立 円山小学校(中央区)

児童数:965名
クラス数:30クラス(2022.10.31現在)
行事名:円山フェスティバル

年間行事としては最大規模で行われてきたPTA主催のイベント、円山フェスティバル。体育館に全校児童が集まったり、全校で児童が行き交うお祭りイベントでした。三密回避の観点から令和2年度、同3年度は中止。令和4年度はどうするかが不透明な中、今年も委員会だけは立ち上げました。話し合いを始めたのは6月。開催予定の9月の感染状況が読めない中、「もし開催したとしたら?」のイメージづくりから始めました。

フェスって何?

最初にやってきたハードルはフェスティバルを経験している保護者・先生・児童の少なさです。4年生以上の保護者・児童しか参加経験がなく、保護者にお手伝いを頼んだとしても、何をすればよいのかイメージがつかない。児童としても楽しみにしているというよりは「フェスって何?」な状況。先生方もある程度入れ替わりがあり、実施の是非を聞いても、見たことがない先生方にとっては判断材料がありませんでした。「今年も開催はないだろう。」と思って消極的に委員・係を引き受けてくれた方もゼロではなかったはず。このような状況で開催して、本当に成功するとは言い切れない状況でした。

それでも消えなかった不安

いよいよ内容も定まり、全校への案内を配ろうとした時、「待った」がかりました。やはり一部の方には児童が全校で行き交う以前のフェスティバルのイメージが強いせいか、実施に対して不安の声が出たのです。全員に納得してもらうのはそもそも無理と割り切ることもできましたが、安全対策を徹底しており、昔のイベントとは違う事実が伝わるよう「お楽しみ会」と名前を変更して案内を配付することにしました。イベントをやりたい人だけが独走するのではなく、どうやったら不安がある人も引き連れていけるのか。ここを丁寧に説明・調整できるかどうか「やる」にこぎつける要のように感じています。



TVの向こうにいる校長先生とのじゃんけん大会に湧く教室

安全対策と楽しさは両立できるか

実施する場合の焦点はどれだけ感染症対策ができるのか。また、対策をとりつつ楽しませられるかでした。企画の方向としては児童は教室内で楽しむ。つまり通常の授業と同じ感染症対策の範囲で行える内容にすると決まりました。ただ、それでは学校全体で行う行事としての一体感が生まれないので、教室のみで開催しつつもお互いが繋がりが合える方法が必要でした。そこで着目したのが先生のタブレットと教室のテレビでした。

伝わってる?児童729名、当日係100名

安全面からクラスごとの実施としているので、どうしても膨れるのが運営スタッフの数です。同様に、密集をできるだけ避けるために事前に何度も説明会を開くことができません。各クラスでお手伝いをして下さる係さんには、ほぼ当日の説明一度きりで内容を伝え切らねばなりません。ここでも各クラスのテレビを活用しました。全体での説明に加えて、しおりの作り方や玉入れの方法を動画で放送して、児童だけでなくお手伝いをする側の理解の負担が最小限になるよう努めました。運営側は内容を熟知していますが、初めて内容を聞く人が「ついていけない」状況はイベントでは発生しがちです。どこまで徹底できたかは分かりませんが、伝える工夫にゴールはないと感じました。



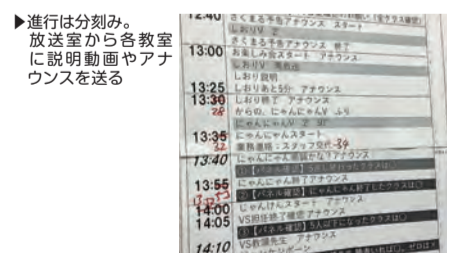
じゃんけん勝者を放送室でのヒーローインタビューに送り出す

30クラスが別々に、ひとつになる

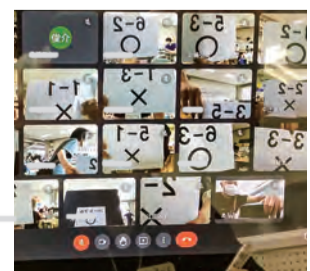
最終的にプログラムは3つになりました。個人での「しおり作り」、クラス内対抗の「玉入れ」、そして全校児童で勝ち残りをかける「じゃんけん大会」。手元の楽しみから、クラスでの楽しみに広げ、最終的には全校生徒で競い合い一体感をもたせていく流れでした。ここで問題になるのが、分断された30クラスをどうやってほぼ同時進行させていくかでした。そこでタブレットとTVの登場です。放送室から全クラスへTV放送を行うのです。教室にいる児童とお手伝いの保護者が次に何をすればよいか分かるように、イベントの進行を実況中継していくことにしました。ただ放送室では各教室の様子が分からないので担任の先生のタブレットに入っている遠隔での職員会議システムを使い、放送室から全教室の様子が把握できるようにしました。それによりバラバラになりがちな進行に、ある程度のまとまりを作ることができました。「どうやら2年2組も玉入れが終わったようですね。これで全教室終了。では次のプログラムです。」と進行に一体感をもたせることが可能になりました。

祭りのあと

運営に関わった保護者にアンケートを実施しました。イベントの運営側はやってよかったと結論づけてしまいがちですが、本当にそうなのを検証して来年に向けての課題を整理しているところです。それでもやってよかったと思えることが2つありました。1つはとても地味ですが、お楽しみ会があった9/17からこの記事を書いている9/30までに学級閉鎖はゼロという事実です。もう1つはイベントの全校対抗のじゃんけん大会。勝ち残った児童と戦うラスボスとして校長先生に登場していただきました。イベントのあと、校長先生は下校する児童を見送っておられましたが、玄関にはリベンジじゃんけんを望む児童の笑顔の列。ゲーチョコキパー、ゲーチョコキパー、やれどもやれども列が終わることはありませんでした。



30教室から送られるサインを放送室で把握。実況中継で一体感も



令和5年度 札幌市文教施策に関する要望書



昨年の11月に札幌市内の各単位PTAからいただいた、学校教育に関する様々な想いの詰まった合計2,119件の要望について、総務委員会にて春から集約作業を進めてまいりました。去る10月25日、札幌市教育委員会において、「令和5年度文教施策に関する要望書」手交式が行われましたので報告します。今年度は、例年の要望書よりは数の点で絞り込み、多くの会員の方から届いている声をきちんと教育行政に反映していただくことと試行錯誤してきました。

手交式には、札幌市教育委員会から檜田教育長、竹村教育次長、木村生涯学習部長にご出席いただき、札幌市PTA協議会からは中野会長、辻本副会長、青山総務委員長の3名での参加となりました。社会情勢の変化が著しく、教育の現場でも難しい課題が山積している今こそ、子どもたちにとってより良い教育環境の維持・発展に継続して努めていただけるよう、PTA会員の生の声を元にしっかりと要望を伝えてまいりました。

青山総務委員長からの要望書の概要説明の際は、特に教科書・教材等の軽量化に向けて、具体的な説明に努めました。檜田教育長はじめ教育委員会の皆様は一つ一つの要望に耳を傾けてくださり、追って回答書の手交式にて正式に回答する旨お約束していただきました。回答書の手交式は令和4年12月23日を予定しております。

札幌市PTA協議会のホームページでは、過去の要望書、回答書を閲覧可能にしておりますので、お時間がある際には是非ご覧ください。



札幌市教育委員会への要望

1. 学級定員の少人数化のさらなる推進
2. 冬季体育学習の充実、スキー学習に関わる負担軽減のための事業拡大や環境整備
3. 教職員の増員・加配・専科教員の配置
4. スクールカウンセラーの増員、利用しやすい体制・環境の整備
5. 特別支援学級の教職員の増員、支援体制のさらなる充実
6. 学びのサポーター・相談支援パートナーの増員、事業の充実
7. 学校給食の仕組み・食育指導の取り組み等についての広報の充実
8. 学校へのエアコン設置
9. 教科書・教材の軽量化、保管場所について学校単位の状況に合わせた対策の推進
10. 学校裁量予算を含む、幅広い教育関連予算の増額

札幌市PTA協議会 研修セミナー開催報告

令和4年度

「アイデアの秘密」



9月28日(水)ちえりあホールにて、きむらゆういち先生をお迎えして研修セミナーを開催いたしました。全市から大変多くの応募、参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

日々の生活の中から作品制作のヒントを見出していく過程、思考の角度、ご自身の経験や感覚を作品に変換していく過程など、大変貴重なお話を伺うことができました。

冒頭、先生がお話を始める前の「変身」をはじめ、「アイデア」を活かした手作り作品もたくさん見させていただきました。家庭にあるものを子どもたちと一緒に「おもちゃ」に変化させ、楽しめる物にする、何気ない日常の中から作品を生み出していき、きむら先生の感性に触れ、当たり前として捉えずにポジティブかつ多角的に感じ表現していくことで、子どもたちの関わりを楽しんでいくことの素晴らしさを感じました。きむら先生による絵本の朗読や「あらしのよるに」の歌舞伎の一部なども大変素晴らしく、あっという間の90分間でした。

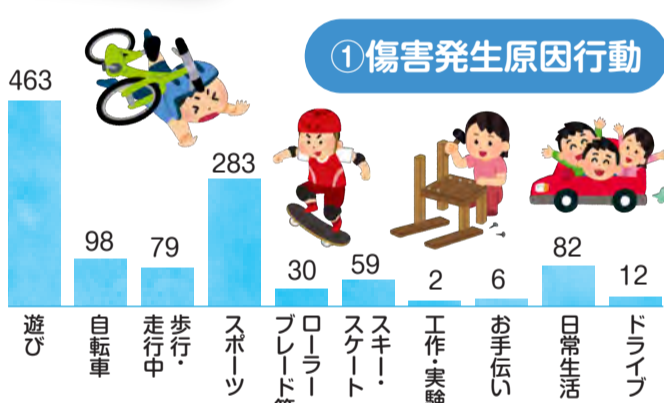
セミナー後には先生のご好意でサイン会が開催され、参加者の皆様との交流を楽しんでいる先生の様子が大変微笑ましく感じられました。そして来場者の皆様と久しぶりに同じ空間で経験を共有できたことに、現地開催の良さを感じたセミナーになったのではないのでしょうか。皆さまの様々な感じ方で、きむら先生のお話をヒントに「アイデア」を楽しんでいきましょう。

PTA共済会からのお知らせ

傷害状況調査報告

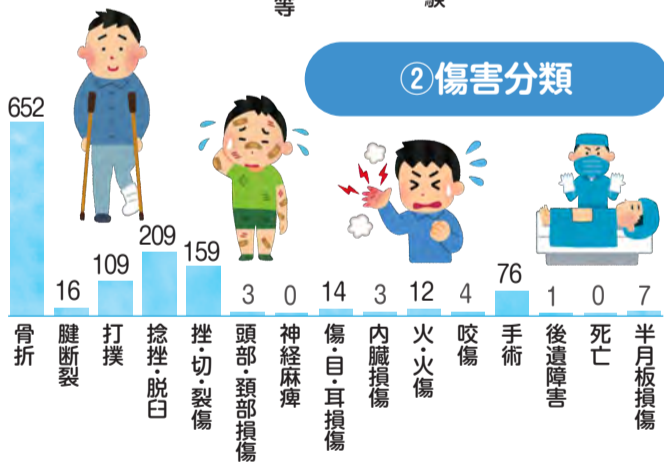
令和4年4月1日から9月30日までの、学校管理下外での「けが」に対する、共済金給付請求書から、発生件数・発生原因行動・傷害の種類などについて表しました。

① 傷害発生原因行動



共済金給付件数は、1,115件になりました。校種別加入数に対する発生率は、園児0.4%、小学生85%、中学生14.6%になり学校管理下外の生活の中で、1日におよそ6人のけがが発生している割合になります。また、けがの原因になった行動では、「遊び」の場が最も多く次に「スポーツ」の場となっています。左記に資料をグラフ化してみました。

② 傷害分類



けがの内容も多種にわたり、特に骨折が著しく多く652件をかぞえ、けが全体の50%を占めており、極めて高い比率で、安全指導上特に留意すべき事柄といえます。また、ローラープレード等によるケガは、30件と例年の半分程度に落ち着きました。安全な乗り方をご指導いただいている賜物と思われれます。

③ 交通事故

交通事故は、30件でした。全体のけがから交通事故件数の占める割合は2.6%ですが、自転車と車の事故では大きなけがにつながるものが多く、今年度も重大事故が2件発生しています。一般の自転車事故にもいえることですが、自転車を使用するに当たり、使用の開・終期をはじめ、使用範囲や時間帯、整備状況、乗り方、ヘルメットの着用など、保護者の皆様には日常的に指導していただき、子どもたちの安全に配慮していただきたいと思います。

PTA共済会に関して不明な点は

各単位PTAの事務局または、札幌市PTA共済会の事務局(671-2372)へお気軽にお問い合わせください。



子どものこと相談してみませんか?

子どもが学校に行きたくないと言っている...
子どもへの関わり方で悩んでいる...

相談は無料です。秘密は守ります。

011-211-3783
子ども専用(無料) 0120-66-3783
assist@city.sapporo.jp

札幌市子どもの権利センター

札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館6階

第77回 指定都市PTA情報交換会 さいたま市大会

全体テーマ「これからの時代のPTAを考えよう!」
～全ては子どもたちの笑顔のために～

令和4年9月15日・16日の両日、さいたま市にて「第77回指定都市PTA情報交換会さいたま市大会」が開催され札幌市PTA協議会から4名が参加しました。分科会では、4つのテーマに沿って情報交換会が行われました。3年ぶりのリアル開催ということで、ここで得た情報を今後のPTA活動に役立てるべく各都市PTAのみなさんと積極的に意見を交わすことができました。

- 第1分科会 組織・運営「PTAの任意加入について」
- 第2分科会 地域連携「コミュニティ・スクール」
- 第3分科会 成人教育活動「教員の働き方改革への対応」
- 第4分科会 広報・情報活動「PTA活動とITC」

悩みがあったら相談してね!

秘密は守らよ!
悩みとお話しして! 必ず力になるよ!

子どもの人権110番
0120-007-110

子どもの人権SOS-eメール
インターネット人権相談
https://www.jinken.go.jp/kodomo

札幌法務局・札幌人権擁護委員連合会